



# 認知症に起因する徘徊と安心なまちづくりを考える 地域円卓会議

認知症でも安心して暮らせるまちの実現に向けて  
民間の力を活用したまちづくりを考える

## 実施報告書

日 時： 2019年1月26日(土) 13:00-18:00  
場 所： 宜野湾市民図書館カルチャーホール（沖縄県宜野湾市我如古3-4-10）  
主 催： 沖縄県高齢者福祉介護課  
協 力： 宜野湾市、西原町、NTTドコモ九州、合同会社トキニライド  
NPO法人まちなか研究所わくわく、公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成  
NPO法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】認知症に起因する徘徊と安心なまちづくりを考える地域円卓会議



- 日 時：2019年1月26日(土) 13:00-18:00
- 場 所：宜野湾市民図書館カルチャーホール
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：49名（地域住民・行政・企業）
- 主 催： 沖縄県高齢者福祉介護課

- 協 力： 宜野湾市、西原町、NTTドコモ九州、  
合同会社トキニライド、  
NPO法人まちなか研究所わくわく、  
公益財団法人みらいファンド沖縄
- お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供

**志良堂 孝 氏**（宜野湾市介護長寿課 長寿支援係 係長）

### 認知症でも安心して暮らせるまちの実現に向けて 民間の力を活用したまちづくりを考える

今や県内における認知症を患う方々は県民の28人に一人とされています。認知症に起因する道迷い（徘徊）に対して、地域はどのように対応し、安心できるまちづくりを実現すべきなのでしょうか？今回は、宜野湾市と西原町で実証実験される、自動販売機を活用した検索模擬訓練を通して、認知症を取り巻く地域の現状を理解し、課題解決に向かう地域の参画アクションを考える円卓会議を行います。

### センターメンバー



志良堂 孝  
宜野湾市  
介護長寿課  
長寿支援係 係長



涌波 淳子  
特定医療法人  
アガベ会  
運営本部長-理事長



渡久山 和之  
沖縄県  
高齢者福祉介護課  
班長



熊本 浩平  
西原町役場 福祉部  
健康支援課  
介護支援係  
主任保健師



直塚 浩二  
NTTドコモ  
九州支社  
法人営業部  
担当部長



沼尻 和樹  
琉球朝日放送  
アナウンサー

## ➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

### 事実の提供

- 宜野湾市の基礎情報
  - ✓ 人口 97,845 人、高齢者数 17,289 人（平成 29 年）
  - ✓ 高齢者率 17.7%（沖縄県 20.5%、全国 27%）
  - ✓ 要支援者 511 人、要介護者 2,236 人
  - ✓ 介護認定率 15.9%（沖縄県 18.5%）
  - ✓ 認知症 15.6% 2,500 人（平成 27 年）  
19.7% 4,200 人（平成 37 年（推計））
  - ✓ 認知症Ⅱα以上の割合は県平均より 5 ポイント高い
- 宜野湾市の主な取り組み
  - ✓ 見守りおかえり支援ネットワーク（H28,11 月～）  
宜野湾市・社協・警察と連携  
登録団体数 36 団体（52 事業所）、事前登録者 41 人  
検索依頼数 6～7 件／年
- ✓ 4 包括による地域包括支援センター  
月 1 でカフェを開催／沖縄国際大学でも開催
- ✓ 認知症サポーター養成講座（平成 29 年度）  
32 回開催、764 人参加（累計 4,145 人）
- ✓ 養成講座、キャラバン（RUN 伴）、カフェ、ケアパス  
の配布を実施
- 西原町の基礎情報
  - ✓ 大学やニュータウンがあることが高齢化率の歯止めを  
かけている
  - ✓ 行政区域によって高齢化率に大きく差が出る
  - ✓ 支援窓口では介護する側から相談が多いためサポート  
できる情報を提供
  - ✓ 検索は年に数回あるが手掛かりのない状況で検索

### 評価の提供

- 2040 年に向け高齢者増加に伴い認知症高齢者も増加予想
- 取り組みに必要な 2 つの視点
  - ①認知症に関する普及啓発
  - ②認知症予防と認知症の方、家族の支援
- 関心、無関心層である個人や企業の意識の差が大きい
- 新オレンジプランは不十分。各事業のつながりが薄い
- 宜野湾市では行政、専門職、民間、地域住民との連携の  
仕組みづくりは始まったばかりである

### 視点の提供

- 西原町では地域や関係者で支える仕組みづくりが急務
- 認知症の方を介護するため仕事を辞める方が増加し、担  
い手世代の社会生活が希薄になる
- 介護サービスを使うことの弊害として認知症の方が地  
域から見えなくなる（地域で支えることができない）
- 地域支え合いが大切で他人事ではなく自分ごとにする
- 自己責任にせず地域などに頼ることも大切
- 自分も含めて身近な人も発症する可能性があるのが認  
知症のため、安心して暮らせる地域づくりが急務
- 生活に支障が出たら認知症という診断になる
- 認知症は外見だけで判断することが難しいため、どう判  
断していくかが今後の課題
- 中核症状である機能障害が発症することで 2 次的な心  
理状況である抑うつや不安、焦燥などが発生することを  
周りの人間が理解する必要がある
- 家族や介護者の不適切なケアは虐待の延長線上になる
- 認知症の方への基本対応は 3 つの”ない”  
①驚かせない、②急がせない、③自尊心を傷つけない

### 事例の提供

- 元看護婦で認知症を発症した方の事例
  - ✓ 発症当初は自覚しにくい
  - ✓ 独居のため相談ができず一人で抱え込んでいる
  - ✓ 服の着方や漢字が書けないなどでパニックになる
  - ✓ 地域と意思疎通ができず生活が困難になる
- ✓ 中核症状が出ることから通院することを受け入れられ  
ない
- ✓ 身体と頭と心の状態で出る症状の大小がある
- ✓ 介護者のストレスから不適切なケアになってしまい、  
関係性が悪くなる

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 認知症に伴う徘徊・道迷い問題は広域でのネットワークが重要、簡便でオペレーションの楽な情報共有を
- 認知症の困りごとはなかなか地域に頼れないもの、困難な状況をしっかり地域が汲み取れる手法開発を
- 認知症発症者に対する不適切なケアは、当事者も周囲も2次的なトラブルを発生させる。日常的な啓発も重要である。

## ■参加者によるサブセッション

### 認知症でも安心して暮らせるまちの実現に向けて民間の力を利用したまちづくりを考える

(原文のまま)

- ① ・ヤクルトや配色サービス等の企業側から見守り活動に積極的に参加していただけたら…
  - ・認知症サポーター養成講座開催（企業向けや学校向け）
  - ・見守り協力してくれるコンビニや企業を増やす
- ② ・最新技術である AI、ICT、タグ、体に埋め込み、ベンチャー企業
  - ・他市町村、県外、広域連携
  - ・高齢者のみではなく子ども含め地域に住んでいる方すべての人が住みやすい地域づくりが大切（浦添市、仲地、松原、直塚さん（NTT ドコモ）、志良堂さん（宜野湾市））
- ③ ・検索するために警察に連絡するのは分かるけど役所に連絡するとは思いませんでした。これが世間の認識のマジョリティ
  - ・みんなに広めていくためにメディア等のフル活用
- ④ ・迷子札をカバンに入れる
  - ・様がおかしい場合は声がけをする
  - ・靴にセンサー
  - ・車を持たなくなるとよく忘れるけど一緒に遊ぶ
  - ・認知症を理解する
- ⑤ ・市町村の枠組みを超えた取り組み
  - ・メディア、IT の活用の推進
- ⑥ ・認知症の普及啓発が一番大事
- ⑦ ・認知症の方と特別な接し方をする必要はない
- ⑧ ・65 歳以上の方の問題（認知症）をまずは受けつける
  - ・包括支援センターの存在が認知されてきている
  - ・家族が助けてほしいと発信できる手段とそれを受け入れる機関が必要
  - ・支援センターなどだけでは対応できなくなってきており民間の企業も認知症に対応した取り組みが増えたらよい（スーパーや銀行などの窓口業務など）
- ⑨ ・自販機メーカーとして社会貢献
  - ・子どもの見守り、カメラ、防犯条例が市町村レベルでは難しい
  - ・まだ身近に認知症の人がいなく実感がなかった。今日参加して初めてのことが多く驚いている。将来的には必要。大きな問題と捉えていなかった
  - ・スーパーの行方不明のチラシはほぼ見つからない。地域に知識を落とすことはとても難しい
  - ・認知症に限らず将来的には子ども、ペットと展開
  - ・ちょっとおかしいかな？と気になって終わりではなく、一報入れるなど次につなげる
  - ・タグにその人の情報（その日の血圧など）を入れられるのか
  - ・タグは健常者の時から持っている習慣が必要では
- ⑩ ・自治会区域内で道迷いが発生。浦添まで出向いたが自分で自宅まで帰ってきていた。
  - ・市で取り組むことも大事だが近隣市町村と協力して取り組むことも必要
  - ・ネットワークの大切さ

- ⑩ ・理想は道に迷ったとき、地域の人が声をかけて行方不明を防ぐ。どのくらいの人口規模だったらできるか？
- ・沖縄県は車社会だから見つける人がいないが資源として子ども（登下校時）やガソリンスタンドのスタッフ、自販機など
  - ・個人情報の問題視する声もあるから啓発活動が大切
- ⑪ ・たくさんの人が集まる施設、場所ができればよい社会（安心安全）になっていくのでは
- ・ボランティア精神を持った民間の働きも

活用していく

- ・現在は IT を活用した仕組みが必要。将来はそれに頼らない社会へ
  - ・高齢者がやりがい、役割を持てるような場所を
  - ・一人歩きの目的が行きたい場所へとなるように
- ⑫ ・見守り支援を行うには県全体で実施出来たらよりいい
- ・民間をどう巻き込んでいくか

# 広域連携検索模擬訓練と地域円卓会議 参加者アンケート集計

## ◆概要

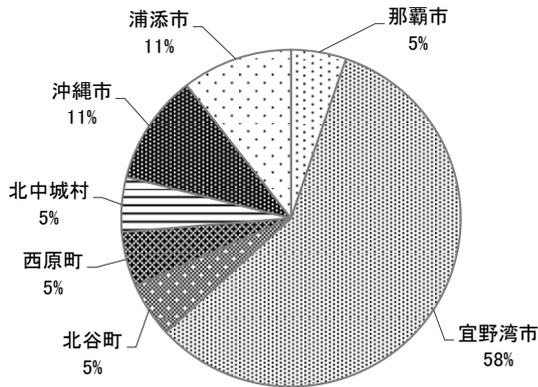
- ・日時：2019年1月26日(土) 13:00-18:00
- ・場所：宜野湾市民図書館カルチャーホール
- ・着席者：8名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者：49名(アンケート回収19名、回収率39%)

## 4. 満足度

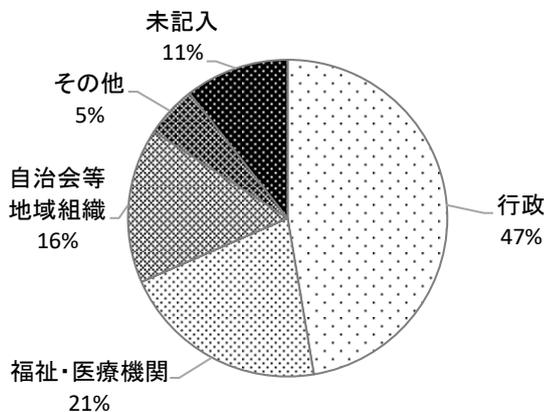
平均：4.7 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
12名	5名	0名	0名	0名

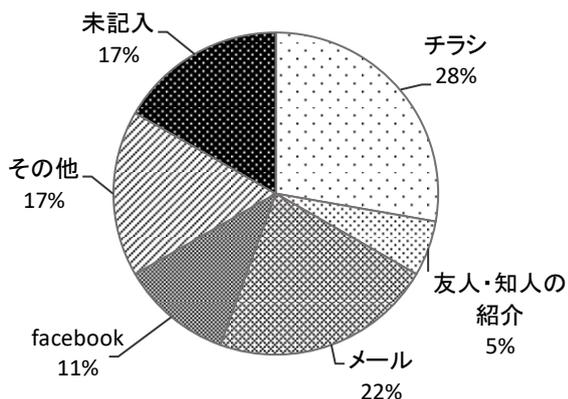
## 1. どちらから？



## 2. 所属



## 3. 円卓会議はどのように知ったか



## 5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ ツールを用いて検索をどうやるかを実演してくれたので分かりやすくおもしろかった
- ・ パネリストの人選が良いため提供されるためになる情報を面白く聞くことができた
- ・ 県、自治体の担当責任者が数字をもって丁寧に説明。認知症を医療の現場で実施されている方の分かりやすい説明。ひな壇の方も含めた第2セッション。時間が短いと思う中でのテキパキしたタイムマネジメントと仕切り
- ・ 認知症の地域での生活を見守るサポーターとしての分母の部分大きくしていく活動を進める中で、見守る人を増やすことが大切だと理解しつつも、その見守る人たちが疲れてしまっは続かないことも現実としてあるので人+システム (ICT) は今後、絶対に必要と思いました
- ・ 模擬訓練にも参加させてもらう。具体的にイメージが良かったです。導入するときは地域の特性にあった導入の仕方が大事ということが分かった
- ・ ICT を活用した創作の可能性を知りたかった。実践 (モニターを使って) で見られたことが良かった
- ・ 多方面からの意見が聞けて良かった
- ・ 新しい視点の話、普段話が聞けない分野からの視点が参考になりました
- ・ 民間のユーモアのある発想がいい。アイデアを得られた
- ・ 民間の豊富なアイデアが聞けて良かった
- ・ 認知症によって道迷いに対して役所、社協、

包括地域の方が協力して対応する

- ・ 実際に模擬検索に参加してスマートフォンを使った検索が実用的であることが分かった。(改善点があると思うが)
- ・ ボランティアの中で認知症の勉強会もとても必要だと思う
- ・ 桶波先生の認知症の説明が分かりやすかったです
- ・ 民間が「社会福祉」をして目立とう！という考え方を広げてもらえるといいと思います

#### (4. 概ね満足)

- ・ 民間事業者もいて視点を知ることができたので良かった
- ・ 民間企業の参入の意味を考えることができました
- ・ お互いに意識づくり、関係づくりができた
- ・ 認知症に対しての広域連携模擬訓練を実際に行っていることを見学できたのはとても良かったと思いました。市町村をまたぐ課題を広域で考えていくことはとても大切であると思います
- ・ 認知症を理解することが必要。地域包括支援センターの役割を明確にする必要がある

#### 5. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 介護事業者や包括支援センターなどだけでは徘徊などの問題などに対応できなくなっていることから、ITを活用していかなければならないことを認識できたことが大きな学びでした
- ・ 人間の尊厳を大切にする。(涌波さん)
- ・ コミュニティの再接合(平良さん)
- ・ ビックデータの活用
- ・ 沖縄は車社会。道に立っているのは自販機と子どもとGSバイトのみ
- ・ 認知症になる前に「手段」を教えることが大切だと思いました
- ・ 子ども見守りとの連携

- ・ 行政が行っている認知症施策について、民間や地域住民、様々な方からアイデアが広がってとても楽しかったです
- ・ 前もって、何を話す(準備)したら良いのか。何を期待されているのかが分かると準備しやすいです
- ・ ICTの運用にも人(企業・個人)、ICTを活用して直接探すのも人。人をつなげていくことの重要性を感じた
- ・ 涌波先生のワクワク最高!
- ・ 認知症は他人事ではなく自分ごと。認知症になっても安心安全暮らせるような地域づくりをみんなで協力したほうが良い
- ・ 人と力とITの力を合わせる
- ・ 顔見知りになって、近所の散策や地域の歴史を知る歩け歩きたいかとか、声をかけやすい地域づくり(人づくり)することが大事
- ・ まちづくりと高齢者や一般市民、子どもたちが安全に過ごせることを第一に考える
- ・ 人と力とITの活用
- ・ 個人により受け止め方が違う。見つかった時、①帽子を見てホッとした、②大勢で取り囲むのは認知症の人には恐怖を感じさせる。2つの意見に分かれましたが本人の受け止め方の違いと本人の気持ちを知ることが大事だと勉強させていただきました
- ・ 具体的にどう連携していけばいいのか。「地域」には何を託すのかなど
- ・ 様々な方々との対話を重ねながら考え続けることが必要なのだと改めて感じました

(写真) 会場の様子



